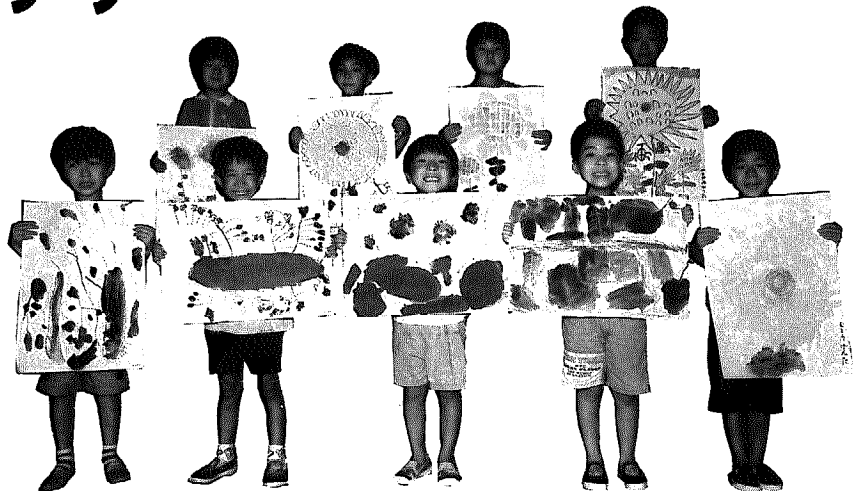


「ひまわり文庫」が
成果を披露

ボランティアによる読み聞かせの会「ひまわり文庫」が、先月10日、和納小2年生を前に、「おはなし」や「絵本の朗読」を初めて披露しました。

ゆっくりとした口調で絵本の世界を演出すると、児童は静かに聞き入っていました。



■上段左から：みとみゆうたくん、ごとうきょうへいくん、あべみかちゃん、やまかみゆうたくん、■下段左から：ほりこしけいすけくん、あべゆうきくん、ささぐちかひろくん、あおやぎまさふみくん、むとうげんたくん

わたしの自信作

中央保育園 五歳児

このコンテストは、アナウンサー、朗読、ラジオ番組、TV番組の四部門で行われ、佐藤さんの応募した「朗読部門」は、指定された文学作品の中から一編を選び、好きなところを二分以内で録音し、テープで応募するというもので、全国大会へは、県の審査（予選）を通過してのものです。

送委員という、いわば専門家。好奇心旺盛な彼女が、先生のフアイルから同コンテストの応募用紙を見つけ、軽い気持ちでチャレンジしたのが昨年とのこと。そのときの結果に満足はいなかった彼女は、以来、国語朗読CDなどを調べて、発音やアクセント、発声などを中心に自宅で練習を重ねてきました。

▼佐藤さんをはさんで、右が桑原校長、左が担当の平松先生



最優秀賞受賞

朗読部門



岩室中学校 3年 佐藤未奈さん (岩室)

第15回NHK杯全国放送コンテスト

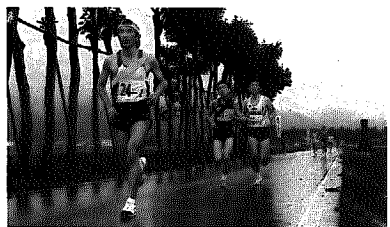
「情報化社会に生きる中学生の、豊かな人間性の育成と、校内放送活動の健全育成、および放送教育の充実・発展」を目的に、NHKが主催し、文部省が後援して開催される第15回NHK杯全国中学生放送コンテストが、八月二十一日、千代田放送会館で行われ、朗読部門で岩室中三年佐藤未奈さん(岩室)が、応募総数一七一九名の中から見事、最優秀賞を受賞しました。

「将来は、放送関係の仕事をやりたい」とさわやかに話す笑顔が、テレビのブラウン管に登場する日も、そう遠くないかもしれない。また、今回の受賞は、がんばり屋の多い岩室生徒を象徴しているニュースとして、他の生徒にも大きな影響を与えたようで、今後の活躍が、一層期待されるところです。

水しぶきを上げ、雨のほ場を激走!
～第3回 さわやか駅伝大会開催～

前日からの悪天候の中、8月30日、第3回大通川放水路さわやか駅伝大会が栄・新谷地区ほ場コース(1周3km)で行われ、参加者たちが自慢の健脚を競い合いました。

中学生14チーム、成人34チームが出場した大会には、悪天候にもかかわらず大勢の人々がおとずれ、雨の中、水しぶきを上げて力走するランナーに、声援を送っていました。



中学生女子でただ一人11分台を出した岩中二年大岩春奈さん



信濃路に間瀬大工の巧を訪ねて
～寿学級館外研修～

「ふるさと・間瀬」を再確認しようと、寿学級では、8月27～28日にかけ長野県野沢温泉村を訪ねました。湯けむりの中、高台に建つ「曹洞宗・健命寺」の本堂に足を踏み入ると、間瀬大工の特徴といわれる「刻線」を深く彫り込んだ彫刻が目にとびこみ、当時の大工集団の技の素晴らしさをしのばせてくれます。

棟札に残る先人の名前を、確かめながら食い入るように見入っていた参加者のひとり橋久子さんは、「おじさんや兄弟が北海道に渡り、お寺や北海道大の建築にたずさわったと聞いている。今日は、その人たちの残したものに触れられて感激した。まるで、先人に会わせてもらったような気がする。」と、しみじみと話していました。

参加した学級生も、一様に間瀬大工の巧みの技に、深く感銘を受けていたようでした。

▼棟札を見入る参加者たち



青軍(松崎友和団長)優勝! 秋晴れのもと、岩中体育祭開催



リレー スタートです

秋晴れとなった先月6日、岩室中体育祭が行われ、早朝より白熱した競技がくりひろげられ(=写真左=)ました。保護者が声援を送る中、午後一番に行われた四チーム対抗「応援合戦」では、趣向をこらしたパフォーマンスが次々に飛び出し(=写真右=)会場から大きな拍手が送られていました。



優勝した青軍のパフォーマンス

岩室ジュニアが
見事ブロック優勝

～かんぼ少年サッカー県央地区大会～

8月30日、「第1回かんぼ少年サッカー県央地区5年生大会」が、吉田町ふれあい広場で行われ、岩室ジュニアチームが、ブロック優勝しました。

初戦を2対0で栄北(栄町)を下した後、春の県大会3位南小FC(三条市)を2対0で完封しブロック優勝した岩室ジュニア、今後の活躍が期待されます。



和納小集中打で岩室小に圧勝! <秋季少年野球大会>

夏の青空が戻ってきたかのように晴上がった先月12日、村民体育祭・秋季少年野球大会が、村民野球場で行われました。

両小学校から、それぞれ3チームが出場(4～6年生)した大会は、予想どおり両校6年生チームが決勝戦へ進出。大きな大会を経験して、ひとまわり大きくなったチーム同志の対戦となりました。

先発投手は、岩小が堀部君、和小が鬼木君と両エース。当初投手戦が予想されましたが、始まってみると、初回和打線が大爆発。

四球の走者をおいて3番大関(努)君がセンター前タイムリー、続く4番鬼木君が左中間を破るランニングホームラン。なおも、大関(宗)君のヒットなどで合計6点を先取し、大きくリードしました。

▼優勝した和納小6年生チーム



途中、岩小もねばりをみせ、田中(雄)君の好投で、一時は3点差まで追いつけたものの、初回の失点がひびき、結局12対4で、和納小が5回コールド勝ちしました。

春季大会では、岩小に敗れ悔しい思いをした和納小。その攻守にわたるはつらつとしたプレーが、とても印象的でした。



▲力投する鬼木君(和小)